

未来へつなぐ — 椿本チェーン 100年史

1917 ▶ 2017

# 世界を、 未来を、 動かせ。

1917年に自転車用チェーンの製造で創業した椿本チエイン。その後、機械用チェーンへと事業転換し、「チェーン」「精機」「自動車部品」「マテハン」の4つの分野で世界の「動く」を支え続けてきました。今後どれだけ時代が移り変わろうと、社会の中ではさまざまなモノが動き続けます。私たちは「動かす」ことに進化をもたらす企業を目指し、技術を磨き、革新的なアイデアとソリューションでお客様の期待に応えていきたい。さらに、その期待を超えた一歩先の提案ができるアクティブで社会から必要とされる企業であり続けたいと考えています。

次の100年へ、TSUBAKIは創業を受け継いできたモノづくりのDNA、フロンティアスピリットを発揮して、社会の期待を超えていきます。

# Chain

## 「動かす」を支える原点

— さまざまな産業に最適なチェーンを提供 —



● 医療用手袋工場(コンベヤチェーン)



● ビール工場(フラットチェーン)



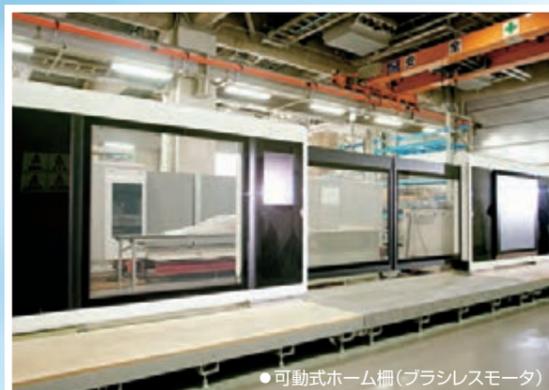
● アンローダ(大形コンベヤチェーン)

● リンゴ選別ソートマシン(小形コンベヤチェーン)

# Power Transmission Units and Components



●シンガポール・フライヤー(カップリング)



●可動式ホーム柵(ブラシレスモータ)



●福祉車両(減速機、ドライブチェーン)



## 便利さと心地よさの追求

— 高精度な作動と円滑な制御を実現 —

●ボーディングブリッジ(パワーシリンダ、ケーブルペヤ、ドライブチェーン)

# Automotive Parts

## 躍動する都市の原動力

— パワートレインの高性能化に貢献 —



●自動車エンジン用タイミングチェーンドライブシステム



●タイミングチェーンドライブシステム部品



●パワードライブチェーン

# Materials Handling Systems



●新聞製作工場(給紙AGV)



●バイオマス発電所(バケットエレベータ)



●最先端医療研究(ラボ・ストック)



●自動車製造工場向けシステム(シムトラック)

モノと情報の流れを **コントロール**  
— 最適な生産・物流システム を提案 —

# New Business



## 未来へのあくなき挑戦

— 積極果敢に新たな分野・技術を開拓 —



チェーンを積み上げて作った仮想都市のオブジェ  
(ステンレス製のドライブチェーン約800mを使用)

次の100年も社会から必要とされる、  
つばきグループであり続けるために。

つばきグループは、創業100周年を機に、  
私たちの「社会的使命」「目指すべき姿」「行動原則」を明確に表現・体系化した  
新企業理念「TSUBAKI SPIRIT」を制定しました。

## TSUBAKI SPIRIT

「動かす」ことに進化をもたらし、  
社会の期待を超えていきます。

TSUBAKIの  
社会的使命

モノづくりにこだわり、モノづくりの先を行く。

TSUBAKIが  
目指すべき姿

- リスクを恐れず一歩を踏み出し、変革とチャレンジを。
- 判断と行動、変化のすべてに、スピードを。
- 積極的に社内外の英知を結集し、共創を。
- 柔軟な発想で、独自の創意工夫を。
- 安全・品質を第一に、つばきブランドに誇りを。

TSUBAKIの  
行動原則

創業の精神 | 和を以て貴しと為す

## 発刊のごあいさつ

当社は2017年に創業100周年を迎えました。これはひとえに、顧客、株主、取引先の皆様のご支援のおかげであると、厚く御礼申し上げます。

このたび、創業100周年を記念して「椿本チエイン100年史」を発刊する運びとなりました。前回の「70年史」以来、30年ぶりの社史発刊となります。

振り返りますと、この30年はバブル経済の絶頂期を経て、「失われた20年」ともいわれる日本経済の長期停滞時期と重なる、変化の激しい時代でもありました。当社でも、生き残りをかけて、創業以来初めての大規模な事業再編実施という苦難を経験しました。その後グローバル化を加速し、世界26カ国に75社を有する“つばきグループ”として、新たな100年に向けて持続的成長を目指しています。

今回の「100年史」編纂に当り、当社が創業以来幾多の困難を乗り越えて現在に至った姿を改めて眺めますと、「和を以て貴しと為す」「自らの道は自ら切り拓く」という創業者・椿本説三の精神が、あらゆる場面で生きていることを感じます。

その精神を継承して2017年4月、新たに企業理念・行動指針である「TSUBAKI SPIRIT」を制定しました。これに立脚し、次の100年もつばきグループが社会から必要とされる企業であるために、社員一丸となって、「動かす」ことに進化をもたらすモノづくり企業として日々の努力を積み重ねていきたいと存じます。

皆様には、引き続いてのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2018年4月

株式会社 椿本チエイン

代表取締役会長 長 勇

代表取締役社長 大原 靖

# 未来へつなぐ—— 椿本チエイン 100年史

## 目次

口絵	2
発刊のご挨拶	17
<b>第1部「時の章」 創造と革新の系譜</b>	25
<b>第1章 創業者・椿本説三の先見性と企業家精神(1917~1927年)</b>	26
第1節 椿本工業所の創業	28
第2節 不況の時代を生き抜く	30
<b>第2章 機械用チェーンで経営基盤を固める(1928~1945年)</b>	32
第1節 機械用チェーンへの本格的進出	34
第2節 業容の拡大を図る	35
第3節 新工場、新体制のスタート	37
第4節 戦時下の経営	39
<b>第3章 戦後の復興を経て経営再建を果たす(1946~1955年)</b>	42
第1節 戦後の混乱の中で	44
第2節 経営再建の道を着々と歩む	46
第3節 近代的経営の萌芽	49
第4節 生産体制の整備	51
<b>第4章 高度成長を追い風に業容を拡大(1956~1969年)</b>	54
第1節 第1次5カ年計画の始動	56
第2節 安心して働ける環境づくり	60
第3節 第2次5カ年計画の推進	61
第4節 事業部門のさらなる発展	64
第5節 国際化を促進	67
第6節 椿本説三の他界	68
第7節 創業50周年を迎える	69
<b>Column</b>	71
趣味と実益を兼ねた「建築」/社歌「椿本の歌」	
<b>第5章 海外展開の加速と生産体制の拡充(1970~1985年)</b>	72
第1節 椿本チエインに社名を変更	74
第2節 低成長時代を迎え体質を強化	76
第3節 生産性の向上に向けて	78
第4節 多様化する営業活動	82
第5節 グループの総合力を発揮	84
第6節 製品の動向	89

<b>第6章 独自の技術でさまざまなニーズに応える(1986~1991年)</b>	94
第1節 戦略的経営の推進	96
第2節 新経営陣の発足	98
第3節 生産体制の整備	100
第4節 海外市場の拡充	102
第5節 国内グループ会社の状況	105
第6節 働きやすい職場づくり	105
第7節 地域とともに	106
第8節 製品の動向	107
<b>Column</b>	111
各工場で社員・地域交流を図るイベントを開催	
<b>第7章 最高の品質、先進技術への挑戦(1992~1996年)</b>	112
第1節 飛躍への体質改善	114
第2節 先進の技術に支えられて	118
第3節 グループ会社の生産体制	120
第4節 海外事業の伸展	121
第5節 阪神・淡路大震災の発生	123
第6節 製品の動向	124
<b>第8章 生き残りをかけた事業の再編(1997~2004年)</b>	128
第1節 経営改革の断行	130
第2節 新しい生産拠点の誕生	138
第3節 環境負荷低減への取り組み	142
第4節 加速するグローバル展開	143
第5節 進化する情報システム	148
第6節 地域との交流	149
第7節 製品の動向	151
<b>第9章 グローバル・ベストの加速(2005~2008年)</b>	156
第1節 新経営体制の始動	158
第2節 コーポレートガバナンスの強化	161
第3節 生産・技術体制の強化	162
第4節 海外拠点の拡充	164
第5節 国内グループ会社の拡充	165
第6節 製品の動向	166
<b>Column</b>	171
京田辺市の小学生親子を対象に夏休み親子工場見学会を開催 みごと全国大会への出場を果たした「つばき倶楽部(軟式野球部)」	

第10章 「長期ビジョン2020」の達成に向けて(2009~2017年)	172
第1節 経営基盤の強化	174
<b>Column</b>	177
革新塾、車座ミーティングの開催	
第2節 新分野への挑戦	183
第3節 「長期ビジョン2020」の策定と始動	184
第4節 グローバル化のさらなる拡大	186
第5節 国内グループ会社の再編	193
第6節 栄誉ある各賞受賞と認知度の向上	195
第7節 進化するつばきグループ 情報システム	197
【情報システムの進化と歴史】	198
<b>Column</b>	199
付加価値の高いサービスを構築し事業分野に貢献していきたい	
第8節 製品の動向	200
第9節 次の100年に向かって	206
創業100周年記念事業	208
記憶に残る100周年、未来につながる100周年	

## 第2部「事の章」受け継がれる、つばきのDNA 213

THEME 1 創業者・椿本説三の軌跡	214
モノづくりの道を自ら切り拓く	215
企業家としての確かな視点	216
現場を愛し、事業に邁進	217
THEME 2 グローバル化の推進	218
グローバル化の始動	218
国際戦略に息づく、フロンティア・スピリット	219
<b>Turning Point</b> 円急騰により白熱した「ハワイ会談」	220
【チェーン事業】 試練を乗り越え、世界市場へ	221
【精機事業】 躍進する中国とタイの生産拠点	223
【自動車部品事業】 埼玉工場をマザー工場に、グローバル生産体制を構築	224
【マテハン事業】 現地企業へのアプローチを加速する	226
<b>COLUMN</b> 中国で成長を遂げたTJTB	227
THEME 3 モノづくり力の進化	228
モノづくり力強化の歩み	228
【チェーン事業】 昭和初期から連綿と続くモノづくり改革	229
【精機事業】 卓越した技能を次世代へつなぐ	233

【自動車部品事業】自動車メーカーと取り組む生産改革活動	234
【マテハン事業】 図面レス化を促進する新たな活動	237

THEME 4 自動車エンジン用タイミングチェーンの隆盛	238
チェーンからベルトへ、そして再びチェーンの時代	238
不屈の技術者魂で巻き返しを図る	239
THEME 5 事業再編と京田辺工場建設	242
企業存続をかけた事業再編と新工場の建設	242
思い切った合理化・再編策を断行	243
人も設備も、京田辺工場へ移転	246
<b>COLUMN</b> 慣れない通勤に苦勞した社員たち	247
THEME 6 ヒトを生かし、育む風土	248
人を大切に、生かす企業風土	248
先進的な制度を次々と導入	249
<b>COLUMN</b> 社内報『つばき文化』の創刊	250
若手技術者を育成する「つばきテクノスクール」	251
技能系社員のスキルを磨く	252
<b>COLUMN</b> OB会「椿寿会」の活動	253
<b>COLUMN</b> キャメリアン・ゴールド研修の開催	253

## 第3部「技の章」モノづくりに生きた、技の進化 255

技術の進化〔技術革新に挑戦した100年〕	256
Part 1 【チェーン事業】	258
飽くなき技術革新と顧客ニーズに応えた商品化	
【主要商品の変遷】	259
ドライブチェーン	260
コンベヤチェーン	262
プラスチックトップチェーン	264
ブラケーブルベヤ	265
Part 2 【精機事業】	266
時代の要請や業界・顧客のニーズに応え、常に新たなテクノロジーに挑む	
〈主要商品と国内事業の歩み〉	267
減速機	268
作動機	269
クラッチ	270
機器(軸継手・締結具・過負荷保護機器)	271

<b>Part 3</b>	<b>【自動車部品事業】</b>	272
	自動車エンジンの進化に応えるタイミングチェーンドライブシステム	
	〈技術のターニングポイント〉	273
	タイミングチェーンドライブシステム	274
	タイミングチェーンドライブシステムを支える生産技術	276
	タイミングベルトドライブシステム	278
	パワードライブチェーン	279
	<b>COLUMN</b> 多様化するパワートレインへの挑戦	279
<b>Part 4</b>	<b>【マテハン事業】</b>	280
	顧客のニーズに応え、最適システムを提供	
	〈搬送技術の進化〉	282
	〈仕分け・保管技術の進化〉	283
	自動車塗装ライン搬送システム	284
	新聞印刷工場向け巻取紙搬送システム	285
	自動仕分け装置	286
	保管・ピッキングシステム	287
	粉粒体搬送設備	288
	金属くず搬送／クーラント処理装置	288
	<b>TOPICS</b> 〈時代の要請に応えた製品・システム〉	289
<b>Part 5</b>	<b>【開発・技術センター】</b>	290
	基盤技術の強化を図り、新商品の開発と事業部門の支援に取り組む	
	〈開発・技術センターの変遷〉	291
	【基盤技術(材料、加工、評価)の強化】	292
	<b>事業・業界マトリックス</b> 〔幅広い分野で、社会を支えるつばき商品〕	294

<b>創業100周年記念 TOP対談</b>	296
これから、より多くの人たちに便利さ、喜び、幸せを提供していきたい	
ジャーナリスト 福島 敦子 × 椿本チエイン代表取締役社長兼COO 大原 靖	
<b>現況編</b>	303
現役員	304
会社組織図	306
つばきグローバルネットワーク(主要グループ会社)	308
<b>資料編</b>	313
定款	314
歴代社長	316
役員任期一覧	318
資本金の推移／売上高・経常利益・営業利益の推移	322
製品別(事業別)売上高の推移／従業員数の推移	324
株式情報／株価の推移	326
年表	328
主要商品発売年表	340
編集後記	342

#### 凡例

- (1) 本書の記述対象期間は、原則として当社創業の1917年12月から2017年11月までの100年間とした。
- (2) 用字用語は原則として常用漢字、現代かなづかいを用いた。
- (3) 年号の記述は、西暦表示を原則とし、節または項の初出に和暦を併記した。
- (4) 人名は原則として敬称を略した。
- (5) 会社名、団体名は原則として法人形態名を省略した。なお外国社名については原則として現地表記とした。
- (6) 地名、団体名などは当時の呼称を用いたが、必要に応じて、現在の呼称を( )内に併記した。
- (7) 数字は算用数字とし、適宜、万、億などの単位語を用いた。
- (8) 商品の登録商標表示は省略した。